

7

ダイバーシティ & インクルージョン

「みんなちがって、みんないい」という言葉を聞いたことはありますか。性別、年齢、国籍、人種、民族、宗教、社会的地位、障害の有無、性的指向・性自認、価値観、働き方等は人によって違います。その違いや多様性を「ダイバーシティ」といいます。また、多様性を排除せず包み込み(包摂し)、生かすことで組織をよりよくしていくことを「インクルージョン」といいます。これらをあわせた「ダイバーシティ&インクルージョン」は、多様な人々が共生し、人権尊重の社会を築いていく上で重要な考え方と言えるでしょう。

ここでは、その妨げとなる、誰もが潜在的にもっているバイアス(先入観、思い込み、決めつけ等)である「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」について考えてみましょう。

● 次の項目について、自分自身が「そう思う」か「そう思わない」か考えて、いずれかに「○」を書いてみましょう。

	項目	そう思う	そう思わない
ア	女性は気配りができるので、秘書やアシスタント業務に向いている。		
イ	シニア(高齢者)はパソコン操作や SNS が苦手なので若手に任せるのがよい。		
ウ	障害のある人は、難しい仕事ができないので、簡易で単純な作業を割り当てる方がよい。		
エ	LGBT 等性的マイノリティ*の人は、美容関係や芸能関係の業種に偏っており、金融業や行政職にはほとんどいない。(*第2部「テーマ10 自分らしく生きるために」参照)		
オ	定時で帰る社員は、仕事のやる気がない。		
カ	外国人には日本語が難しいので、営業よりも肉体労働などの方が働きやすい。		
キ	非正規雇用で働く人は、自分で望んで、その働き方を選択している。		
ク	病気治療しながら働いている人は、仕事をやめて治療に専念した方がよい。		

このチェックリストは、「そう思う」「こうに違いない」という思い込みや意識、つまりあなた自身の「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」に気づくためのものです。

「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」は、悪気なく、気づかないうちに、「決めつけ」や「押しつけ」をしてしまい、その人の個性や、それぞれがもつ違い等の多様性を受け入れる妨げとなります。自分の印象だけが正しいと思い込まず、「そうとは限らないだろう」という意識ももちながら、一人ひとりの多様な個性を理解し、認め合おうとすることがダイバーシティ&インクルージョンの第一歩と言えます。

